令和６年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1．応募区分 図書館活動における功績
2．対象者 東京外国語大学総務企画部学術情報課受入係　布野　真秀
3．件名 著者記号管理システムの開発
4．結果 採択
5．理由 本件は、「著者記号管理システム」を開発することで、東京外国語大学が採用している独自分類において発生していた管理上の課題を解決し、業務の効率化を行ったものである。 同大学では多様な言語の書籍を所蔵していることから、文学作品についてはテキストの言語で分類・管理する独自分類を採用している。請求記号にはカッター・サンボーン著者記号を用い、複数の著者が同一の著者記号になる場合は、著者記号に言語別受入順にアルファベットの識別子を付与している。識別子の管理はカードで行うため、既存の識別子の確認に手間がかかり管理が煩雑であった。 この問題点を解消するため、内製により著者記号管理システムの開発を行った結果、既存のハードウェアとオープンソースを使用し開発費用を抑えた上で、シンプルなテーブル構造を持つシステムを構築し、Web ブラウザ上での著者記号管理、マージ機能等を実装し、誤登録の防止や省力化を実現した。課題の抽出、必要機能の選別、構成においてよく考えられたシステムであり、他大学での応用の可能性を持つものである。 このように一人の担当者が業務の現場において果敢に課題に向き合い、現時点で個人が取り組める範囲で業務のシステム化を実現した点を高く評価する。この取り組みは、ビジョン2025「目標 1-2）図書館資料の整備と利用のための保存」における適切な整備に係る取組みと言えるものである。 以上のことから、本件は業務の処理等に関する改善において顕著な成果が認められ、かつ広く大学図書館の活動において先行的、独創的意義を有するものとして「国立大学図書館協会賞選考基準」第４条第１項に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。 なお、既存の複雑な請求記号体系を維持する必要性については、同大学だけでなく様々な図書館にとっても根本的な課題の一つであるため、本取組みに留まることなく、さらなる図書館 DX の可能性について応募者の所属大学において継続的な検討がなされ、さらにその成果が他の図書館等に共有・還元されることを期待する。